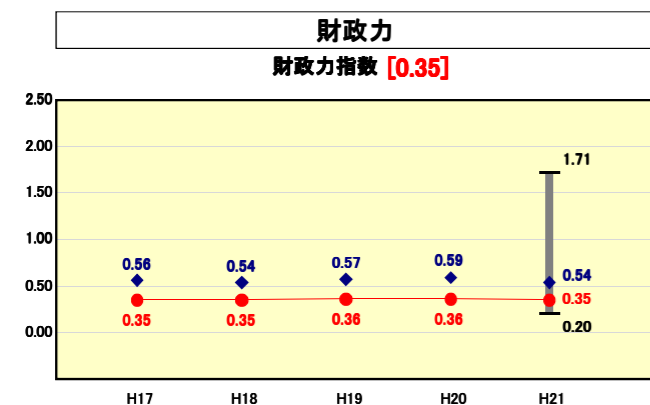
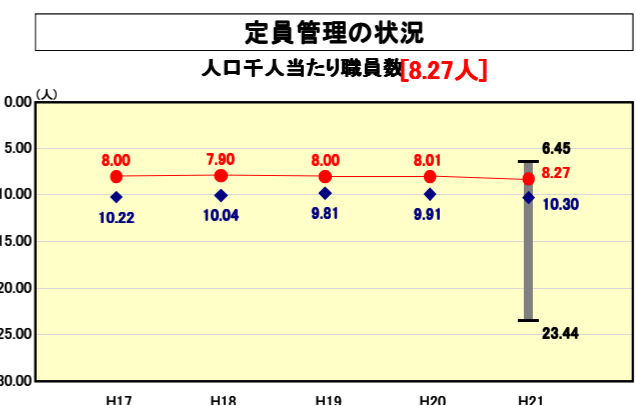
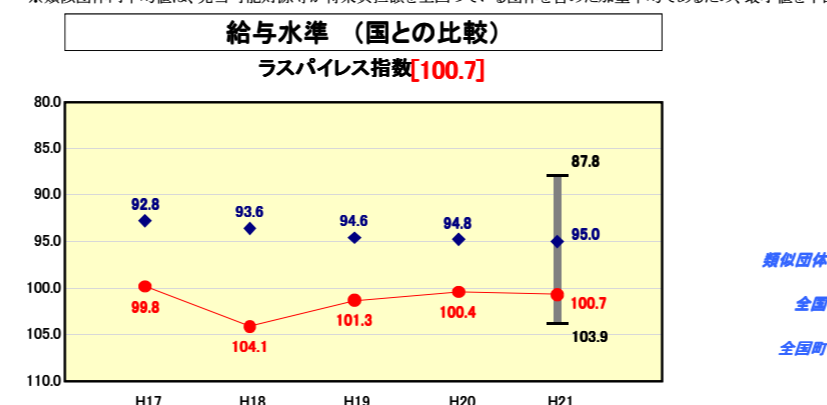
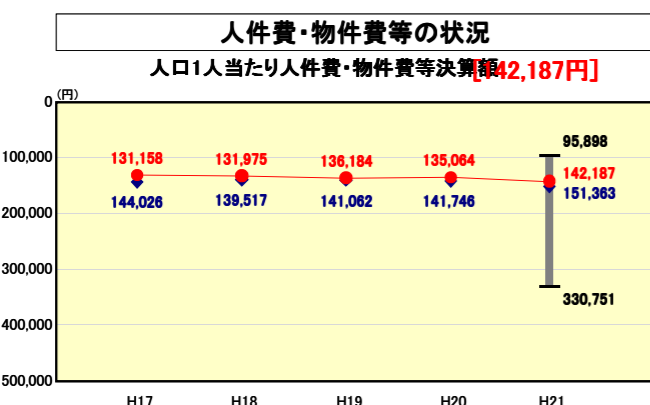
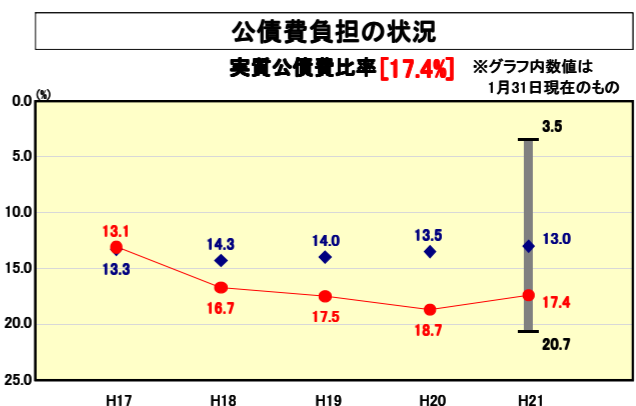
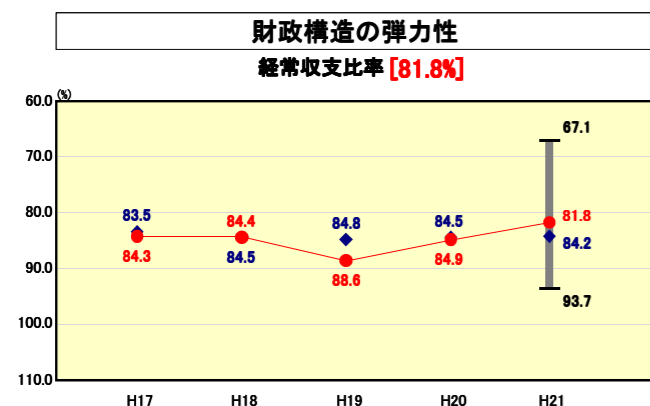
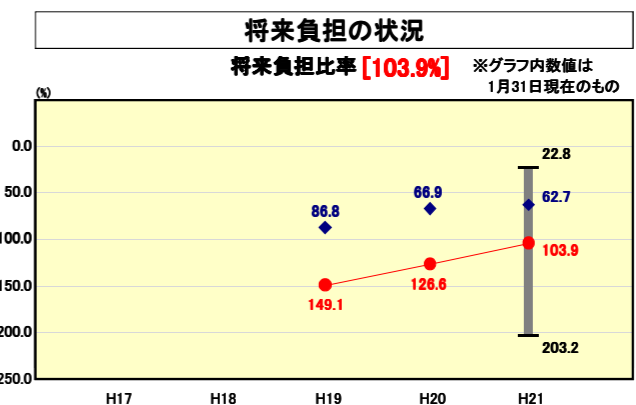
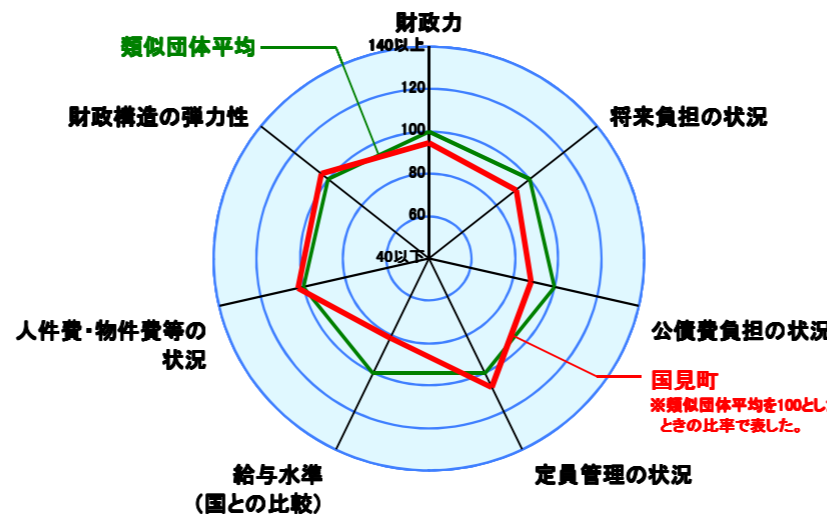


# 市町村財政比較分析表(平成21年度普通会計決算)



● 当該団体値  
◆ 類似団体内平均値  
T 類似団体内の最大値及び最小値

人口	10,402 人(H22.3.31現在)
面積	37.90 km <sup>2</sup>
標準財政規模	3,292,354 千円
歳入総額	4,385,445 千円
歳出総額	4,170,239 千円
実質収支	180,353 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

## 分析欄

**財政力指数:** 人口の減少や全国平均を上回る高齢化率に加え、町産業の中心となる農業での所得の伸び悩み等により、財政基盤が弱くほぼ横ばいとなっている。受益者負担のあり方を見直すとともに、行財政の効率化に努め、活力あるまちづくりを展開しつつ、引き続き財政の健全化を図る。

**経常収支比率:** 平成20年度と比較して3.1ポイント減少しているものの、町税収入等の伸び悩みの中、今後藤田小学校体育館建築事業、防災行政無線(同報系)施設整備事業等の償還により公債費の上昇が見込まれ、経常収支比率の上昇が予想される。公債費負担適正化計画に基づき、新たな起債発行の抑制や財政収支の状況により積極的な繰上償還を行い、次年度以降の償還額の減少に努めている。

**ラスパイレース指数:** 平成19年4月1日に給与構造の見直しを実施した結果、有期限で行っていた給与削減措置の終了により指数が上昇した。給料の1~3%減額措置を行うなど適正な水準へ引き下げを図っていく。

**実質公債費比率:** 平成21年度に策定した公債費負担適正化計画に基づき、新たな起債発行の抑制や財政収支の状況により積極的な繰上償還を行った結果、平成20年度と比較して1.3ポイント減少の17.4%となった。今後も比率の低下に努める。

**将来負担比率:** 繰上償還を行ってきた結果、平成17年度をピークに地方債現在高が減少している。また、公立藤田病院組合が発行した病院建設改良に係る企業債についても平成17年度をピークに減少している。今後も将来への負担を少しでも軽減するよう、新規事業の実施等についても総点検を図り、財政の健全化を図る。

**人口1,000人当たり職員数:** 平成17年度に策定した集中改革プランでは、平成18年度から平成22年度までの5年間で8人削減することとしていたが、平成21年度までの4年間で達成している。今後も定員の適正化を進める。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額:** 類似団体と比較して、人件費・物件費等の決算額がやや低くなっている要因として、ゴミ処理業務や消防業務を一部事務組合で行っていることが挙げられる。今後も、人件費や経常物件費の継続した抑制に努めていく。